

設立5周年 保存版

PEACE
BOAT

ピースボート災害ボランティアセンター (PBV)

2016年度 活動報告

2016.4.1 - 2017.3.31



[オフィシャルサイト] <http://pbv.or.jp/>

[英語サイト] <http://pbv.or.jp/en/>

ピースボート災害ボランティアセンター（PBV）の活動は、2016年4月で5周年を迎えることができました。これもひとえに皆様からのご支援の賜物と、深く感謝しております。

振り返れば、1983年以来、国際交流の船旅を出し続けた国際NGOピースボートが目指してきたのは、「国と国の利害関係を越えて、人と人との繋がりを作ること」。船には1,000もの人たちが乗船し、3ヶ月かけて地球を巡ります。港や船上で、国籍や文化、宗教、言語、性別を越えて人と人が出会い、語り、交流を図ってきました。その出会いは、地域に暮らす人々の目線で社会課題を共有し、共に解決の糸口を模索することでもありました。そして、一人ひとりが具体的に行動できる場の一つとして、災害支援があります。2011年、東日本大震災を受けて長期に渡る継続的な支援の必要性から、PBVを設立しました。

「人こそが人を支援できるということ」

このPBVの理念は、これまでに脈々と紡いできた人と人との繋がりをもとにしています。PBVの役割の一つは、その被災地の営みに寄り添いながら、自発的に手を差し伸べたいという人たちの想いをカタチにして被災地に繋いでいくことです。被災者と支援者は一方的に何かを提供し、または受け取る存在ではなく、お互いに影響しあっている存在でもあります。災害は、ときに私たちが被災者に、ときに私たちが支援者にもします。その関わりは、またカタチを変えて循環していきます。今後も皆様と一緒に、国や地域を越えてすべての人々が互いに助け合える社会を目指して行きたいと思えます。これからもご支援、ご協力いただけますようお願い申し上げます。

ピースボート災害ボランティアセンター
代表理事 **山本 隆**

国際NGO「ピースボート」とは



ピースボートは1983年の設立以来、世界各地を巡る「国際交流の船旅」をコーディネートしてきた非営利の国際NGOです。世界中の人々との出会いを通じて、国と国との利害関係を越えた草の根のつながりをつくることを目指して、これまでに90回以上の航海を行ってきました。世界200以上の国と地域を巡り、のべ6万人以上の方が参加しています。2016年には、国連「持続可能な開発目標（SDGs）」の公式キャンペーン船として認定されました。

ホームページ <http://www.peaceboat.org/>

※ピースボートは、国連経済社会理事会との特別協議資格を持つNGOです。

CONTENTS

国内外の緊急支援 …………… P3

防災・減災への取り組み …………… P5

5年間のあゆみ …………… P7

ピースボートセンターいしのまき …………… P10

2016年度 財務諸表 …………… P11

人こそが人を支援できる ということ

【PBVの活動】

ピースボート災害ボランティアセンター（PBV）は、東日本大震災を受けて2011年4月に設立された一般社団法人です。「国境を越えた災害支援は、地域や世界の平和をつくる」という国際交流NGOピースボートの想いを受け継いで、「国内外の災害支援」と「防災・減災への取り組み」を中心に活動を行っています。

国内外の災害救援

防災・減災への
取り組み

国内外の災害救援

国際NGOピースボートは1995年の阪神淡路大震災がきっかけに、世界各国で災害救援活動を行ってきました。2011年、東日本大震災が発生すると、すぐさま現場へスタッフを派遣し、宮城県でボランティアによる緊急支援活動を開始しました。PBVを設立して以降も、日本各地の風水害や豪雪災害、地震災害の被災地へボランティアを派遣して緊急支援を行うほか、国際ネットワークを活かした海外での災害支援も展開しています。災害に見舞われた方々や地域の回復のために、支援者として自発的に関わる方たちの想いを形にしていきます。

防災・減災への取り組み

日本は、毎年大小さまざまな災害が発生し、ときには想定をも上回る巨大災害を経験しています。将来の災害に備えるため、全国各地で防災・減災教育や災害ボランティア・トレーニングを実施しています。また、行政と民間、国の違いを越えたネットワークの構築など、平時の取り組みを大切にしています。2015年に仙台でおこなわれた「第3回国連防災世界会議」では、市民ネットワークである「2015防災世界会議日本CSOネットワーク（JCC2015）」の共同事務局を務めました。これらの教育プログラムやネットワークを通じて、災害に強い社会作りを目指します。

熊本地震

熊本地震では、震度7におよぶ大きな揺れが2回発生し、その後も1500回を超える余震が断続的に続きました。避難者数は最大で18万人以上となり、全壊した家屋は8千棟以上で、甚大な被害をもたらしました。PBVでは、すぐにスタッフを派遣し、多岐にわたる支援活動を、約9ヶ月間実施しました。



実施期間 2017年4月16日～12月31日

活動場所 熊本県熊本市、益城町、西原村

活動人数 日別延べ活動人数 2,715人
(143人派遣)

活動内容:

支援物資配布、避難所運営サポート、食事支援、
災害ボランティアセンター運営サポート、
仮設住宅支援、児童発達・障がい児支援、
全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD) へのスタッフ派遣

被災者の避難生活を支える



家屋の損傷や余震の不安から多くの方達が避難所に詰め掛きました。熊本県益城町役場の要請を受ける形で、避難所となった「広安小学校」と「グランメッセ熊本」にボランティアを派遣し、避難所の環境改善や自主運営の促進を含めた運営サポートを行いました。避難所では栄養不足やストレスの軽減を図るために、14カ所の避難所に対して野菜を中心とした温かい食事を約22,000食提供してきました。また、生活を再開するためには家の片付けが必要となってきます。地元の災害ボランティアセンターの運営をサポートしながら、ボランティアと共に家屋の清掃や片付けも行いました。そして、仮設住宅に入居されて方達に対しては、お互いのコミュニケーションの場となる集会所や談話室で活用できる備品の提供を行いました。

新たな取り組みにチャレンジ



医療機関の多くが被災したため、特に障がいを持つ子ども達が日中過ごす場所がなくなってしまいました。そこで、地元の小児科・内科クリニックが児童発達支援のデイサービスを開設しました。PBVでは有資格者のボランティアを派遣し、立ち上げと継続した運営サポートを行いました。東日本大震災の教訓から、広範囲で甚大な被害が発生した場合には、支援団体間や行政との連携・調整の必要があります。そこで、情報共有や連携した課題解決を実現するネットワークの場として「全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD)」が設立されました。熊本地震では、JVOADの働きかけで地元の中間支援組織や社会福祉協議会や行政機関が参加する連絡調整会議を定期的で開催されました。PBVでも、JVOAD事務局にスタッフを派遣し運営のサポートを行いました。

台風10号被害(岩手県岩泉町)



実施期間 2016年9月14日～10月31日

活動場所 岩手県岩泉町

活動内容:

支援ネットワーク立ち上げサポート、
災害ボランティアセンター運営サポート

8月30日に発生した台風10号によって、河川が氾濫し岩手県岩泉町では約850棟で浸水被害が発生しました。PBVでは、全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD) より要請を受け、支援ネットワークの立ち上げのサポートを実施しました。災害ボランティアセンター運営サポートでは、丁寧に住民のニーズに耳を傾けました。

ハイチ共和国 ハリケーン・マシュー

2016年10月4日にカリブ海を襲った大型ハリケーン・マシューは、ハイチ共和国を直撃し約1000人が亡くなり、17万5千人が避難を余儀なくされました。さらに衛生管理設備や上下水設備が破壊され、飲料水や生活用水の汚染が進みました。地域では感染が拡大していくコレラや下痢などの病に悩まされていました。これらの被害を受けて、PBVでは、ニューヨークのハリケーン支援で協働した米国のNPO「World Cares Center (WCC)」らと共に支援活動を展開しました。

第一次支援としては、救援物資と共にコレラ予防のための衛生用品の配布をおこないました。第二次支援では、地元のカウンターパートナーや国連機関と情報交換を行いながら、衛生的な水の提供と地域の衛生環境向上を目的とする支援を実施。6つのコミュニティで、衛生環境向上のためのワークショップを開催しました。ワークショップでは、衛生的な水と石鹼を使った手洗い方法やしっかりとした食材の加熱、トイレの使用方法などを話し合いました。そして、地域の方達が衛生的な水が得られるように飲料水用フィルターを744世帯、学校4校、診療所2箇所に配布しました。また、800人以上の方に対してコレラ予防のための要点が記載されたインフォメーションカードを配布しながら、啓発活動にも取り組みました。これらのプロジェクトを通じて、1万人以上の方が10年間、安全な飲料水の供給が保障され、病気になるリスクが軽減されました。

実施期間 2016年10月29日～2017年2月7日

活動場所 グランドアンス県・ジェレミー地区

活動内容:

衛生用品配布、飲料水用フィルター配布、コレラ対策ワークショップ、衛生対策の啓発活動



エクアドル地震

2016年4月16日にエクアドルの沿岸地域で、661人が亡くなり、16,600人が負傷するマグニチュード7.8の地震が発生しました。エクアドルは、国際NGOピースボートのクルーズが寄港する場所でもあり、現地カウンターパートナーを通じて、被災コミュニティへの資金協力を行いました。震源地付近のマナビ州ペデルナレス郡では、ライフライ

ンの80%に甚大な被害があり、コミュニティの電気供給が失われ生活再建を困難にしていました。PBVからの資金協力によって、この被害を受けた地域に暮らす120世帯が使用している電気・電波供給ラインの復旧と住民が利用するバス停留所の再建が行われました。

備蓄品を国際協力に活かす Safety bank プロジェクト

個人や組織、地域が災害に備えることによって、さらに社会にとって好循環を生み出す仕組みを提案してきた「Safety bank プロジェクト」。被災した住民の声と、数多くの災害支援経験をもとにセレクトした「防災グッズ」や「防災非常食(備蓄食)」提供してきました。そして今年も、消費期限切れ前の備蓄品を国際協力に活かす取り組みに力を入れました。多くの企業や事業所では、防災備蓄品の消費期限に合わせて3年から5年の周期で入れ替えます。しかし、備蓄品を入れ替える際に大量の食品を廃棄せざるを得ないという難しい実情があります。そこで、地球上を船で回る国際NGOピースボートのネットワークを活用して必要とする地域に届けました。



ベネズエラの地域食堂へ



サノフィ株式会社より備蓄食(クッキー、クラッカー、パンの缶詰など)をご提供いただき、中南米のベネズエラ政府が実施している困窮者支援のカサ・デ・アリメタシオン(地域食堂)に届けました。特に貧困状態にある子ども達は、食事を求めて働かなければならず、そのため教育が受けられず非行や犯罪行為に手を染めるという負の連鎖があります。地域食堂では、そのような子ども達に無料で食事を提供し、大きな成果を上げています。

チリの洪水被災者へ



日本モーターボート競走会から乾パンやアルファ米を約1万食ご提供いただきました。当初、南米チリの大規模山火事被災者に届ける予定でしたが物資が充足したため、最終的には現地カウンターパートナーのCODEFF(チリ動植物保護協会)を通じて、チリ北部コキンボ州、アタカマ州での大雨被害による洪水被災者に届けられました。

国際交流の夏休み 二つの子どもプロジェクト 福島×熊本

7月末から東アジアを巡るクルーズ「PEACE & GREEN BOAT 2016」で、福島と熊本の2つの子どもプロジェクトを行いました。国際NGOピースボートとPBVが共同で2011年から続ける「福島子どもプロジェクト」からは、南相馬市の中高生11名が参加。また、今回は「熊本子どもプロジェクト」を初開催。4月の熊本地震被害を受け、南阿蘇村の子どもたちに飛びっきりの夏休みの体験をプレゼントしたいと、教育委員会にもご協力いただき、小中学生計25名が参加。韓国からのクルーズに参加した子ども達ともに大交流しました。



防災・減災教育プログラム

東日本大震災の支援活動に欠かせない災害ボランティアリーダーを育成する必要性から、「災害ボランティア・リーダートレーニング」が2011年11月に被災地で開始されました。それ以降も、災害ボランティアの裾野を広げようと「災害ボランティア入門(講座・web検定)を全国で実施し、各家庭や地域の防災・減災を考えるワークショップも展開してきました。この5年間で、PBVが開発した教育プログラムを累計約500回実施し、10,000を超える人達が受講しました。

プログラム名	受講者数	実施回数
災害ボランティア入門 (web検定含む)	673人	32回
リーダートレーニング	157人	8回
災害VC運営者研修	473人	9回
わが家の災害対応ワークショップ	922人	36回
支援を活かす地域カワークショップ	258人	6回
講演・イベント	2,421人	35回

(2016年度)

たのしく防災! しんじゅく防災フェスタ2016

今年、初開催となった防災週間の特別企画「しんじゅく防災フェスタ2016」は、約3,000名が参加する盛大な防災・減災イベントになりました。新宿区内の行政、NPO、事業者、大学、ボランティアらが協働で運営に関わり、「たのしく学ぶ」をコンセプトに、特に子ども・若者・外国人にも参加しやすいプログラム作りをしました。子ども向けのプログラムでは、おもちゃのかえっこ防災体験を組み合わせた「イザ! カエルキャラバン!」が大人気でした。語学ボランティアも募集し、外国人向けの英語のプログラムも実施しました。大学生世代を中心に、高校生から70代までの老若男女200人以上がボランティアとしてイベントを盛り立てました。「しんじゅく防災フェスタ」は、毎年新しいチャレンジも増やしながら3年間は継続していきます。



若者の輪をひろげよう! JCC-DRR Youth

JCC-DRR Youthは、将来の防災・減災の担い手となる学生・若者による「防災・減災日本CSOネットワーク(JCC-DRR)」のユースチームです。「ユースによるユースのエンパワメント」を目指して活動を続けています。JCC-DRR Youthのメンバーは、2017年3月に「仙台防災未来フォーラム」に参加し、ブース出展やミニプレゼン「防災・減災ユースネットワークのために」を実施しました。その後、岩手・宮城・福島の各地を巡り、若者たちのネットワークを広げるための視察・スタディーツアーを企画しました。



PBV 5年間のあゆみ

2011年東日本大震災、国際NGOピースボートはこれまでの災害支援の経験を活かし、大規模な災害ボランティア派遣を行いました。東北の甚大な被害に対して継続的な支援を行う必要性から、ピースボート災害ボランティアセンター(PBV)が設立されました。

これまでの5年間で携わってきた災害支援活動は、海外10ヶ国、国内31地域

東日本大震災 [石巻市/女川町]

活動期間 2011年3月—2016年3月

総ボランティア数 日別延べ人数 87,504人

活動内容

炊き出し 107,835食
 支援物資 1,800t分
 避難所サポート 60箇所
 清掃活動 2,141件
 コミュニティセンター運営・利用者 11,356人
 仮設住宅への生活必需品配布 1,320世帯
 お茶会イベント 70団地/1,270回
 畑づくり 27地区/134件
 情報紙「仮設さずな新聞」発行・配布
 133団地/累計73万部発行(創刊113号)
 漁村の清掃、養殖や収穫手伝い 19地区
 漁村留学「イマ、ココプロジェクト。」
 日別延べ人数 9,999人/15地区



米国ハリケーン・サンディ [ニューヨーク]

実施期間 2012年11月—2013年4月

活動内容 救援物資配布、ニーズ調査、
家屋清掃・カビ対策、
現地ボランティアコーディネート



フィリピン台風30号・ハイエン [セブ島/ビララン島]

実施期間 2013年11月—2014年6月

活動内容 医療介護用品提供、
家屋修繕キット・キッチン用品配布、
資金提供など



ネパール地震 [カトマンズ/シンドウパルチャック郡など]

実施期間 2015年4月—10月

活動内容 救援物資配布、
災害ボランティアコーディネーション研修、
仮設校舎設置・学習/
レクリエーションキット配布



伊豆大島・台風26号 [大島町]

実施期間 2013年10月—11月

活動内容 家屋清掃、
災害ボランティアセンター運営サポート



広島土砂災害 [広島市]

実施期間 2014年8月—10月

活動内容 災害ボランティアセンター運営サポート、
ニーズ調査と支援調整、
炊き出し「だんだんカフェ」



関東・東北豪雨災害 [常総市/大崎市]

実施期間 2015年9月—12月

活動内容 家屋清掃、外部支援調整、
災害ボランティアセンター運営サポート

年表

2011

3月	東日本大震災・宮城県石巻市、女川町への災害ボランティア派遣開始
4月	一般社団法人 ピースボート災害ボランティアセンター設立
7月	「福島子どもプロジェクト 夏休みアジアクルーズ2011」を開始
10月	ドキュメンタリー『復興への一歩 ―ボランティアと被災者の絆―』が完成 「仮設きずな新聞」を創刊、仮設住宅への配達を開始
11月	災害ボランティア・リーダートレーニングを開始



2012

2月	石巻体験ボランティアプログラム「おらほの浜体験」を開始
6月	コミュニティスペース「ピースボートセンターいしのまき」を開設 「福島子どもプロジェクト2012・夏」
8月	第1回福島大学ユースプロジェクトを実施
9月	「災害ボランティア入門」講座を開始 web検定、「災害ボランティア検定」を開始
10月	石巻市にて浜の暮らし体験「イマ、ココプロジェクト。」を開始 「民間防災および被災地支援ネットワーク」(CVN)を発足

2013

3月	「福島子どもプロジェクト2013・春 in オーストラリア」を実施
10月	「第80回ピースボート 地球一周の船旅」が石巻に初寄港 世界一周 石巻ユース・アンバサダープロジェクトを実施

ピースボートの主な災害支援(海外)

※2017年3月現在



2014

- 3月 「福島子どもプロジェクト2014・春 異文化を体験するアジア国際交流の旅」企業による初の災害支援の実務書「災害支援の手引き」(CVN編)を発刊
- 4月 各家庭の防災を考える「わが家の災害対応ワークショップ」を開始
石巻市民の経験を集めた冊子『石巻市民から学ぶ!! 支援を活かす地域力』を刊行
- 9月 国連国際防災戦略事務局「災害に強い都市の構築」キャンペーンの公式パートナー『福島 10の教訓～原発災害から人びとを守るために～』制作に参画
「災害に強い都市の構築キャンペーン」の一環として「アフリカ・ユースプログラム」を実施



2015

- 3月 「福島子どもプロジェクト2015・春 海でつながるアジア 自然と歴史を学ぶ旅」を実施
第3回国連防災世界会議in仙台
- 7月 防災備えと社会貢献と繋げる「Safety bank」プロジェクトを開始
- 8月 「災害に強い都市の構築キャンペーン」の一環として「アジア・ユースプログラム」を実施



2016

- 3月 一般社団法人 ピースボートセンターいしのまき設立
『仮設きずな新聞』終刊、石巻復興きずな新聞舎が活動を引き継ぐ
- 4月 一般社団法人 ピースボート災害ボランティアセンター 設立5周年
- 7月 「熊本子どもプロジェクト」を実施
「福島子どもプロジェクト2016・夏 東アジア国際交流の船旅」を実施
- 9月 新宿区協働事業「しんじゅく防災フェスタ2016」を開催



2017

- 3月 ブックレット『災害ボランティア入門』出版
PBV防災・減災教育プログラム 累計実施回数・約500回、受講者数・10,000人を超える

ピースボートの主な災害支援(国内)

※2017年3月現在



ピースボートセンター いしのまき

2016年4月に新しいスタートを切った「ピースボートセンターいしのまき(PBI)」は、設立から1年が経ちました。地域に根ざして地域課題に取り組む、PBIの進化した新しいチャレンジを紹介します。

7日間からの漁村留学 イマ、ココプロジェクト



参加者数 252人 日別延べ総活動人数 2194人 [2016年度]

イマ、ココプロジェクト。 石巻の漁村で泊り込みながら漁村のくらし体験ができる「イマ、ココプロジェクト。」は、5年目を迎え、今年も多くの参加者と漁師との素敵な出会いがありました。参加者は、漁村でいつもの日常とは違う生活を過ごしながら漁師の魅力、浜の魅力を感じ、なかには参加後に何度も石巻に足を運んでくれる人たちもいます。また、石巻以外でも交流の機会を増やそうと漁師達が東京に出向き、これまでにプロジェクトに参加した人達と親睦を深める会をもうけることができました。

ほやの普及を目指す ほやほや学会



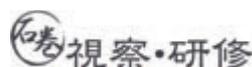
東北の海の幸「ほや」。震災前、全国生産量の約8割を宮城県が占めていました。震災後、ほや漁師達は壊滅的な被害から何とか養殖を再開しました。しかし、主要な消費先であった韓国は東北からの海産物輸入を禁止。そこで、ほやによる東北の振興を掲げ、ほやファンとともにほやの認知度向上と、消費拡大を目指す「ほやほや学会」を立ち上げ、情報発信やイベント実施などを精力的に行っています。

牡蠣のオーナー制度 カキの環



本年度から始まったこのプログラムは、漁師の新たな販路を開き、消費者がその生産過程を知り体験できる牡蠣のオーナー制度です。生産者と消費者が直接つながり交流しながら世界にひとつだけの牡蠣と一緒に育てていきます。オーナーになることで、一番旬の時期に浜の漁師から育てた牡蠣が直接届きます。オーナーが養殖準備期と収穫期などの機会に生産現場を訪れ、自らの手で牡蠣養殖作業や牡蠣の水揚げを生産者と共に行い、直接的な交流の機会を持つ体験プログラムも行っています。

体験して学ぶ 視察・研修プログラム



課題先進地といわれる東北の被災地。復興街づくりや地域振興、担い手確保、防災教育など様々な課題に直面しています。しかし、多くの人達によって新しい取り組みが生まれている地域でもあります。PBIでは、訪問者のニーズに合わせて石巻・女川の魅力を体験し、共に学ぶプログラムを提供しています。今年は、企業の新人研修や大学生、遠くからはドイツの高校生やフィリピンの漁業者を受け入れました。

2016年度財務諸表

単位:円

貸借対照表

【資産の部】	
現金預金	45,892,286
商品	634,532
立替金	0
支払金	11,650
前払費用	1,186,984
未収入金	3,821,068
流動資産合計	51,546,520
資産合計	51,869,521
【負債の部】	
未払金	1,627,148
前受金	6,695,073
仮受金	2,237,519
預り金	261,774
未払法人税等	70,000
流動負債合計	10,891,514
正味財産合計	40,978,007

正味財産増減計算書

経常収益 合計	119,124,529
寄付金収入	30,875,977
助成金収入	69,469,663
自己負担金収入	114,000
サポート会員会費収入	625,000
その他収入	18,039,889
経常費用 合計	117,769,049
事業費 計	111,885,623
管理費 計	5,883,426
当期経常増減額	1,355,480
法人税	70,000
正味財産増減額	1,916,523
正味財産期首残高	39,061,484
正味財産期末残高	40,978,007

※財務諸表の詳細は、公式HP(http://pbv.or.jp/about_pbv/about_pbv_03)に公開しています。

メディアでの紹介

【テレビ】TBSテレビ「Nスタ」/NHK「首都圏ニュース」/NHK「ひるまほっと」/J:COM「デイリーニュースダイジェスト」
 【新聞】毎日新聞/朝日新聞×2回/読売新聞/日本経済新聞×2回/熊本日日新聞×4回/越谷北高新聞
 【雑誌・書籍】ふえみん/災害ボランティア入門(合同出版) 【ラジオ】NHKラジオ/富山民放ラジオ/北日本放送[でらラジ]

ご協力いただいた企業・団体一覧(団体名は略称表記)

物資提供やご寄付、イベントへのご協力など、個人の方々からもたくさんのご協力いただきました。

個人情報観点から、お名前のご紹介は控えさせていただきますが、お一人おひとりの皆様に心より感謝申し上げます。

支援活動へのご協力

藍-つむぎあい/赤とんぼ/アジア協会 アジア友の会/味の素セネラルフーズ/アースウォーカーズ/伊藤園新宿支店/イー・コミュニケーションズ/e-スマイル/大分県防災活動支援センター/大阪ボランティア協会/かながわ311ネットワーク/カルビー/企画屋/九州アイスクリーム協会/九州居酒屋うまかもん/共生地域創造財団/協立塗料/グラウクス/クラウンいちろうくん/グリーンコープ/グリーンバード新宿チーム/グローバル・ヴィレッジ/減災と男女共同参画 研修推進センター/国連世界食糧計画(WFP)/ところをつなぐ「よか隊ネット」/国境なき医師団/小島の森ゴルフパーク/災害NGO結/災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(支援P)/サノフィ/静岡県ボランティア協会/ジャパングレイス/ジャパン・プラットフォーム/シャプラニール=市民による海外協力の会/シャンティ国際ボランティア会/情報支援レスキュー隊(IT DART)/新宿区/新宿区教育委員会/新宿区社会福祉協議会/新宿区町会連合会/新宿消防署/真如苑/真如苑ボランティアサーブ(SeRV)/信賴資本財団/スターバックスコーヒー/スパークス/セカンドハーベスト・ジャパン/セーブザ・チルドレン・ジャパン/創価学会/ソフトバンク/ダイナム/ダイバーシティ研究所/武田薬品工業/中央共同募金会/チーム熊本/チーム中越/テサテブ/電通/天理教/東京YMCA/東京海上アシスタンス/東京海上日動火災保険 Share Happiness 倶楽部/東京災害ボランティアネットワーク/東京土建新宿支部チームNAMAZU/東京都公園協会/東京都助産師会 新宿中野杉並地区分会/東京ボランティア・市民活動センター/遠野まごころネット/とちぎボランティアネットワーク/内閣府(防災担当)/中目黒村マルシェ/難民支援協会(JAR)/難民を助ける会(AAR Japan)/にこまるマーケット/日産自動車/日本YMCA同盟/日本アイ・ビー・エム/日本財団/日本生活協同組合連合会/日本赤十字九州国際看護大学/日本プライマリ・ケア連合学会(PCAT)/日本ボランティアコーディネーター協会/パタゴニア・インターナショナル・インク/ヒタット・フォー・ヒューマンティ・ジャパン/パルシステム生活協同組合連合会/被災地NGO協働センター/人と防災未来センター/ピースウィンズ・ジャパン/福岡龍神太鼓/フードバンクかごしま/ボランティアインフォ/宮崎フェニックス/むそう/め組JAPAN/目白大学社会学部メディア表現学科/モンベル/やまがた絆の架け橋ネットワーク/ラブ&アース/リトルワールド博多ざおん園/リンベル/レスキューアシスト/レスキューストックヤード/レスキュー名古屋西/ロバート・ウォルターズ/ワールド・ビジョン・ジャパン/ADRA Japan/AMDA/ap bank/BookCafe&Berカゼノイチ/CWS Japan/DRT-JAPAN/GIVE2ASIA/gooodo/INTERNATIONAL/MEDICAL CORPS/IP-NET/IsraAID/OPEN JAPAN/PEACE BOAT US/TOMODACHI Initiative/U.S.-Japan Council/UMCOR/WMA JAPAN/World Cares Center/Yahoo!募金/Youth for 3.11

活動地域でのご協力

石巻市/石巻市社会福祉協議会/石巻NOTE/岩泉町/いわてNPO災害支援ネットワーク/岩手県社会福祉協議会/おがた小児科・内科/環境財団/キャンパス熊本/熊本YMCA/熊本学園大学/熊本県/熊本県社会福祉協議会/熊本市/熊本支援プロジェクト/熊本市社会福祉協議会/熊本地震火の国会議/NPOくまもと/くまもと障害者労働センター/グランメッセ熊本/光楽寺/子育て応援団みるくらぶ/たんぼハウス/長薫寺/西原村rebornプロジェクト連絡会議/西原村門田出中公民館/西原村社会福祉協議会/西原村商工会青年部/日本青年会議所九州地区熊本ブロック協議会/被災地障がい者センターくまもと/ふくしま地球市民発信所/益城中学校演劇部/益城町立広安小学校/益城町/益城町社会福祉協議会/街づくりまなぼう/南阿蘇村立南阿蘇中学校/南阿蘇村立南阿蘇西小学校/南相馬こどものつばさ/ロコベリ

加盟団体・ネットワーク

おおさか災害支援ネットワーク/国際協力NGOセンター(JANIC)/国連国際防災戦略事務局(ISDR) Making Cities Resilient: My City is Getting Ready/ジャパン・プラットフォーム(JPF)/震災がつなぐ全国ネットワーク(震つな)/新宿NPOネットワーク協議会/全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)/東京都災害ボランティアセンター アクションプラン推進会議/日本NPOセンター(JNPOC)/東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)/防災・減災日本CSOネットワーク(JCC-DRR)/民間防災および被災地支援ネットワーク(CVNN)/NGO安全管理イニシアティブ(JaNISS)/Quality and Accountability Network Japan(JQAN)/The Global Network of Civil Society Organisations for Disaster Reduction(GNDR)

委託事業

第2回 災害時の連携を考える全国フォーラムの企画・準備および当日の運営[全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)]/平成28年度新宿区協働事業「地域防災の担い手育成事業」[新宿区]/公益財団法人日本財団主催「災害ボランティアリーダー育成研修事業」[震災がつなぐ全国ネットワーク]/TOMODACHI災害復興リーダーシップ・トレーニングプログラム[U.S.-Japan Council]

「サポート会員」になって、PBVの運営を支えてください。

PBVでは、国内外の自然災害における支援活動、災害ボランティアの人材育成プログラム、防災・減災への取り組みなどを実施するために、運営に対する継続的な支援を必要としています。PBVの運営を支える「サポート会員」に、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

【年会費】

【個人】一口 **5,000円** 【団体】一口 **100,000円**

※二口以上のご協力も可能です。

【会員特典】

- ニュースレター「START」と年次報告書をお送りします。
- 各種講演会・イベントを優先してご案内いたします。
- 会員同士の集いの場に、ご参加いただけます。

【ご協力方法】

【PBVサポート会員 申込書】をご提出、またはお電話にてご連絡をいただいた上で、下記まで年会費をご入金ください。



ニュースレター「START」は年に三度発行

郵便振替

郵便振替口座：00120-9-488841（※下6桁は右ツメ）
口座名：社）ピースボート災害ボランティアセンター

クレジットカード

VISA、MasterCardを通じた送金は、下記ホームページから
<http://pbv.or.jp/support-member>

ゆうちょ銀行

ゼロイチキューウ店(019店)当座 0488841
社）ピースボート災害ボランティアセンター

その他 取引先銀行

三菱東京UFJ銀行、みずほ銀行

その他の募金方法に関しては、下記ホームページをご覧ください。

<http://pbv.or.jp/donate>

2016年度 活動報告書

発行：一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター

発行日：2017年6月20日

編集：小林深吾、合田茂広、上島安裕

デザイン：森大樹

写真：Mitsutoshi Nakamura, Suzuki shyoich, Kataoka Kazushi, Ueno Yoshinori

この刊行物に関するお問い合わせは下記までお願いします。

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1-2F-A

TEL：03-3363-7967

FAX：03-3362-6073

E-MAIL：kyuen@pbv.or.jp

URL <http://pbv.or.jp/>

助成元一覧

UMCOR / International Medical Corps / ジャパン・プラットフォーム / Give2Asia / CWS Japan / ActAlliance / 震災がっせん全国ネットワーク / 中央共同募金会 / JCC-DRR / TOMODACHI / Prudential Foundation

